

# 特別活動に関する 目標・内容の構造化等について(2)

# **1．目標・内容の構造化について**

# 検討すべき論点

【前回の論点】 【本日の論点】

【第2回総則・評価特別部会で示された構造化・表形式化イメージ】

## 目標

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等 (見方・考え方)
--------	--------------	--------------------------

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

## 内容

（並列パターン）

知識及び技能に関する統合的な理解 XXXXXXXXXXXXXX	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 XXXXXXXXXXXXXX
知識及び技能 ・XXXXXXX ・XXXXXXX	思考力、判断力、表現力等 ・XXXXXXX ・XXXXXXX

（平行パターン）

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 XXXXXXXXXXXXXX	1)	・XXXXXXX	・XXXXXXX
	2)	・XXXXXXX	・XXXXXXX
	3)	・XXXXXXX	・XXXXXXX
知識及び技能に関する統合的な理解 XXXXXXXXXXXXXX	・XXXXXXX ・XXXXXXX		

### 検討項目① 目標の柱書

・特別活動の資質・能力の趣旨や学習過程について、目標にどのように記載すべきか

### 検討項目④ 資質・能力の柱ごとの目標

・特別活動の知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力・人間性等について、目標にどのように記載すべきか

### 検討項目② 見方・考え方

・特別活動の見方・考え方について、総則・評価部会の整理を踏まえてどのように考えるか

### 検討項目③ 内容の表形式化の具体的な形式

・内容の表形式化について、特別活動においては現行指導要領上、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」それぞれごとに内容を示していない中で、特別活動に適した表形式をどのように考えるか

### 検討項目⑤ 高次の資質・能力

・「高次の資質・能力」について、「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割を担うことされている中、検討項目③を踏まえ、特別活動における「高次の資質・能力」をどのように考えるか



検討項目①（前回資料の修正）

---

## 目標の柱書

## 検討項目① 目標の柱書

- 特別活動の資質・能力の趣旨や学習過程について、目標にどのように記載すべきか



### 現状

#### 現行の学習指導要領の記載

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働きかせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

#### (参考：解説)

- ①様々な集団活動**：目的や構成が異なる様々な集団での活動を通して、自分や他者のよさや可能性に気付いたり、それを発揮したりすることができるようになる
- ②自主的、実践的に取り組む**：集団活動の中で、一人一人の児童生徒が、自主的、実践的に生活における課題の解決に取り組むことを通して学ぶことが、特別活動の方法原理である「なすことによって学ぶ」ことである
- ③互いのよさや可能性を発揮しながら**：集団における合意形成では、過度な競争や同調圧力に流されることなく、他者の意見も受け入れつつ自分の考えも主張できるようにすることが大切
- ④集団や自己の生活上の課題を解決する**：様々な集団活動を通して集団や個人の課題を見いだし、解決するための方法や内容を話し合って、合意形成や意思決定をするとともに、それを協働して成し遂げたり強い意志をもって実現したりする児童生徒の活動内容や学習過程



### 改善に関わる要素 (論点整理より抜粋)

- 主体的・実践的に社会参画する力を育む**ことができるよう、特別活動を中心として見直しを図る
- 子供たちにとって身近な社会である学級・学校をフィールドにして、意見表明の機会、合意形成の機会、参画の機会をより充実させる**必要がある
- 身近な社会である学級・学校で、多様な個性や特性、背景を持つ他者との対話や協働により、児童生徒が主体となってルールの形成や学校生活の改善、学校行事など様々な活動に参画することにより、「生成AI時代の主権者」として、**確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤を提供する領域として、特別活動の位置付けを明確化**すべき**



### 改善イメージ

(第2回総則・評価部会)

● ●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、● ●することなどを通じて（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

#### 1. 資質・能力の趣旨

- 確かな民主主義や共生社会の担い手として求められる、よりよい社会をの形成に向けて参画しようとする資質・能力**について、  
→確かな民主主義や共生社会の実現のための基盤であるという領域の趣旨や、よりよい社会を形成しようとする資質・能力の趣旨を明確化してはどうか

#### 2. 学習過程

- 自己の生活や身近な社会を主体的・実践的に創造する活動**を通して、次のとおり育成することを目指す  
→**自己の生活や身近な社会を**：学習過程として、個人から社会にかけての両面を対象とすることを明確化してはどうか  
→**主体的・実践的に**：社会参画につながる主体性と、実践を通して学ぶという特別活動の特質を明確化してはどうか  
→**創造する活動**：特別活動の学習過程が、自己や社会にとっての新たな価値を生み出すプロセスであることを明確化してはどうか



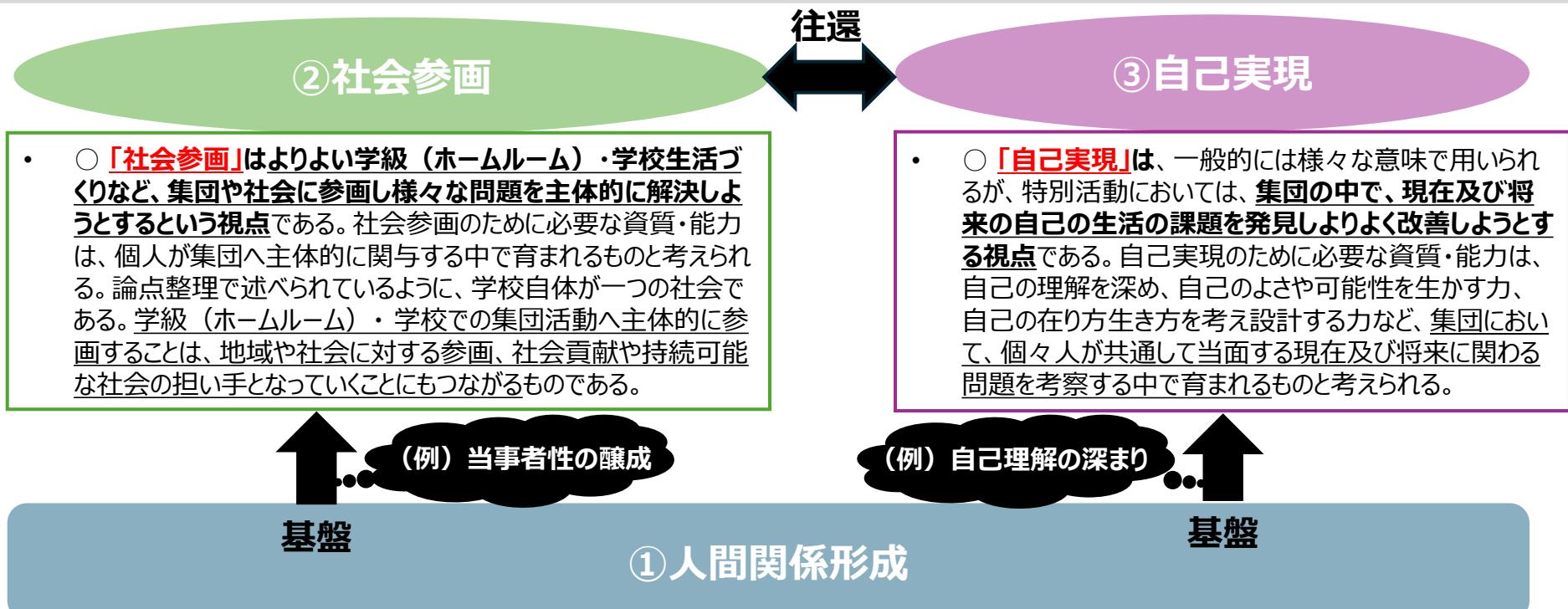
## 検討項目②（前回資料の修正）

---

# 見方・考え方

## 「三つの視点」の関係性の再整理

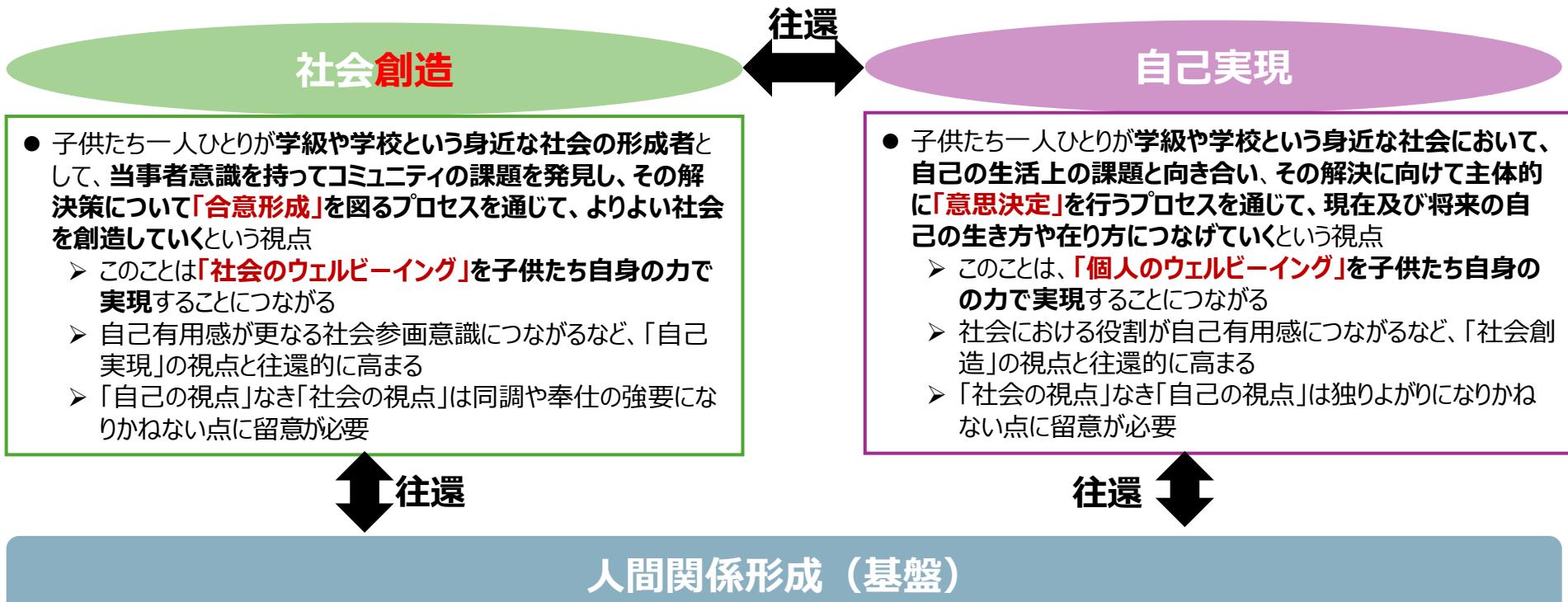
前回改訂時に整理され見方・考え方のベースとなっている三つの視点については、これまで各要素が並列で整理されてきたところであるが、人間関係をよりよいものへと形成する「①人間関係形成」が基盤となって、学級・学校生活づくりなどに参画し様々な問題を主体的に解決しようとする「②社会参画」や、現在及び将来の自己の生活の課題を発見しよりよく改善しようとする「③自己実現」につながっていくこと、更に「②社会参画」と「③自己実現」は往還しながら高まっていくことに鑑み、以下のとおり、関係性を整理してはどうか。



- ・ 「**人間関係形成**」は、**集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点**である。人間関係形成に必要な資質・能力は、集団の中において、課題の発見から実践、振り返りなど特別活動の学習過程全体を通して、個人対個人という関係性の中で育まれるものと考えられる。**年齢や性別といった属性、考え方や関心、意見の違いを理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることが重要である。**

# 「三つの視点」の再整理

- 前回改訂時から見方・考え方のベースとなっている三つの視点（「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」）について、概念上必ずしも並列とは言えないとの指摘があった。
- 以下のような考え方に基づき、「人間関係形成」、「社会創造」、「自己実現」の三つに改め、並列ではなくそれが往還的に高まっていく関係として、以下のとおり再整理してはどうか。



- 学校という身近な社会において、主体的によりよい人間関係を形成していくという視点
  - 安心して意見を表明したり、失敗したりできる「心理的安全性の確保」や、特定の個人・集団に過度に依存しない複層的な人間関係が、コミュニティの合意形成や個人の意思決定のみならず、各教科等における協働的な学びの基盤としての役割を果たす
  - 「社会創造」「自己実現」の視点を有する様々な活動を通じて、人間関係も往還的に高まる
  - ここでいう「人間関係形成」とは同調的な人間関係ではなく、子供たちの多様な個性や特性、背景の包摂を前提として、互いのよさや可能性を発揮し、多様性を個人及び社会の力に変えていく視点を含むものであることに留意が必要

## 検討項目② 見方・考え方

・特別活動の見方・考え方について、総則・評価部会の整理を踏まえてどのように考えるか



### 現状

#### 【見方】

各教科等における「見方・考え方」を総合的に活用して、**集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団社会の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること**

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）」  
(H28.8.26) 教育課程部会

○ 特別活動とは、**様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。**その活動の範囲は学年・学校段階が上がるにつれて広がりを持っていき、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中でその資質・能力は生かされていくことになる。

○ また、実生活の課題を解決するために、**互いのよさや可能性を發揮できるような様々な集団活動を通して、各教科等における学びを実際の場面で総合的に活用して実践する時間であるとともに、特別活動の学びが各教科等の学習を行うまでの土台となるといった各教科等と往還的な関係にあると言つてはいることができる。**

○ このような特別活動の特質を踏まえつつ、「**人間関係形成**」、「**社会参画**」、「**自己実現**」の三つの視点を手掛かりとして、特別活動の「見方・考え方」は、「**各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること**」と整理した。

### 改善に関わる要素

#### (論点整理)

「**身近な社会である学級・学校**で、多様な個性や特性、背景を持つ**他者との対話や協働**により、**児童生徒が主体**となってルールの形成や学校生活の改善、学校行事など様々な活動に参画することにより、「**生成AI時代の主権者**」として、**確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤を提供**する領域として、特別活動の位置付けを明確化すべき」

#### (第2回総則・評価特別部会)

「これまで各教科等の見方・考え方の書きぶりで示していた各教科等の深まりの鍵を示す部分は、構造化により示す中核的な概念等を通じて示すこととしているため、**新たな見方・考え方の書きぶりについては現在よりも短く端的に示すことを基本**としてはどうか」



### 改善イメージ

#### (第2回総則・評価部会)

- (当該教科で扱う事象や対象) を
- (当該教科固有の物事を捉える視点) の視点から捉え (に着目して捉え) 、
- (当該教科固有の考え方や判断の仕方) すること。

#### 当該教科で扱う事象や対象

- **自己の生活や身近な社会における課題** を  
→ 個人の生活における課題から、身近な社会である学級や学校等における課題までを対象とすることを明確化してはどうか

#### 当該教科固有の物事を捉える視点

- **社会参画創造、自己実現及びそれらの基盤としての人間関係形成** の視点から捉え  
→ 前回改訂時に整理した三つの視点の関係性を整理した上で示してはどうか。【補足イメージ】

#### 当該教科固有の考え方や判断の仕方

- **社会を形成する当事者として**  
**多様な他者と協働し、自他のよりよい人生や社会生活につなげる**こと  
→ 社会参画の前提として重要となる当事者性、民主主義や共生社会の実現に向けて不可欠な、自己とは異なる価値観等を有する多様な他者との協働、自己実現や社会参画につながる、自己と他者の現在と将来の生活につなげていく旨を明確にしてはどうか

#### 各教科等の見方・考え方を「総合的に活用」

- 特別活動の学びにおいて、各教科等の学びを総合的に活用する観点は存在しているが、特別活動における学びの本質的意義の中核と向き合い、そのことを端的に表現する観点から、「見方・考え方」の要素には含めないこととしてはどうか。



### 検討項目③

---

**内容の表形式化の  
具体的な形式**

## 検討項目④ 内容の表形式化の具体的な形式

・内容の表形式化について、特別活動においては現行学習指導要領上、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」それぞれごとに内容を示していない中で、特別活動に適した表形式をどのように考えるか



## 議論の前提

### 【第2回総則・評価特別部会での議論】

- 総則・評価特別部会では、
  - ✓ 「知・技」の内容のまとめに対応した「思・判・表」を並列で示す、「並列」パターン
  - ✓ 「思・判・表」の深まりを「知・技」が支えることを示す、「並行」パターン

を示し、各教科等の特質に応じた学習過程の改善を図る上で、教師にイメージがより掴みやすいと考えられる方を選択することとした上で、現行でも「知・技」「思・判・表」それぞれごとに内容を示していない、特別活動等における内容の示し方については、上記のパターンの考え方を踏まえつつ、領域に適した表形式による示し方について、各WGで検討することとしている。

### 【前回改訂時の議論】

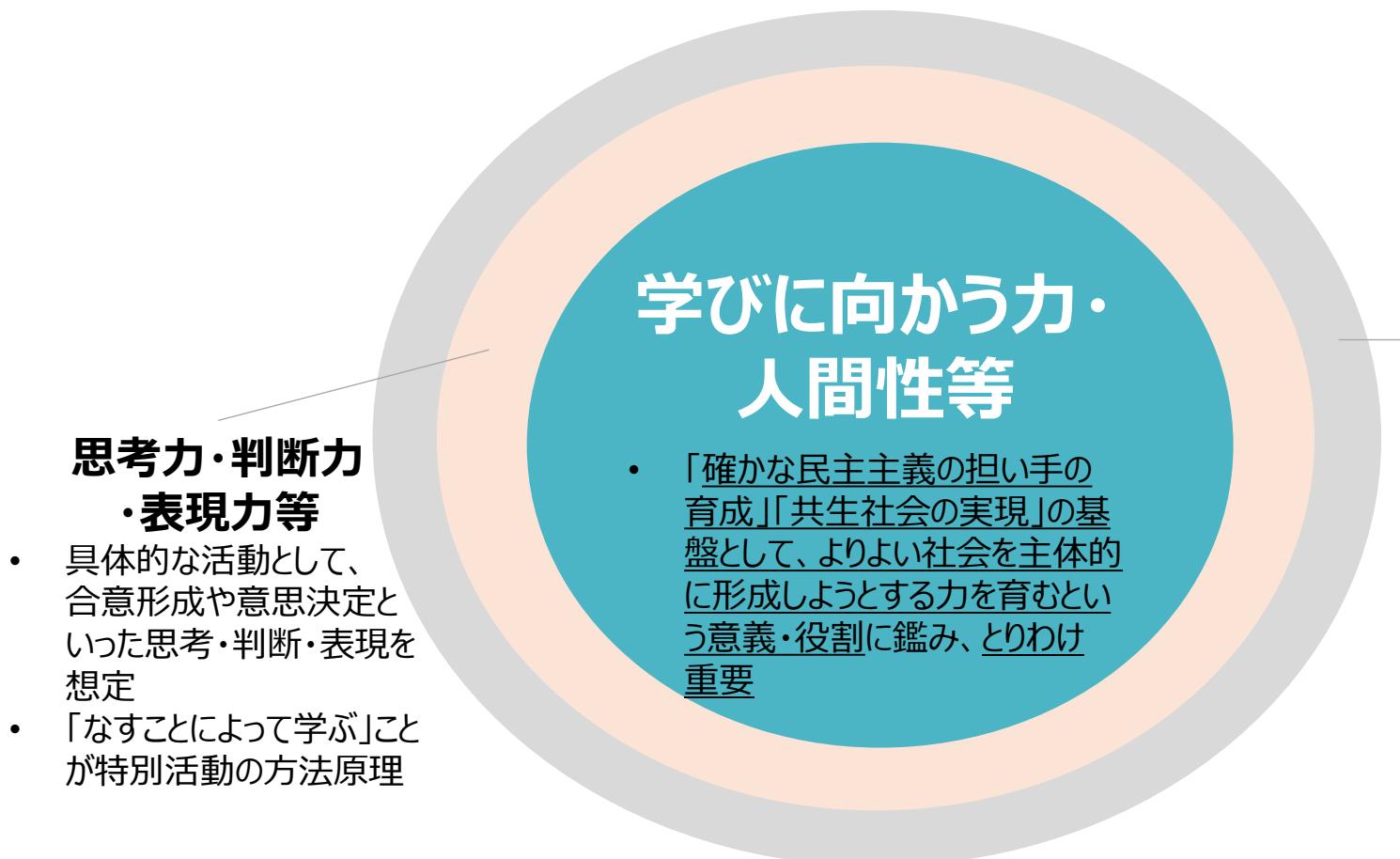
- 特別活動において「『なすことによって学ぶ』ことが重視され、身に付けるべき資質・能力が何なのかが必ずしも意識されてこなかった実態」を踏まえ、目標を資質・能力の三つの柱に沿って整理した。一方、各教科とは異なり、内容については、資質・能力の柱に沿った整理は行っていない。
- また、特別活動の特質として、各活動等において資質・能力を育むだけでなく、①学びに向かう学習集団の形成、②各教科の深い学びへの寄与、③学級・学校文化の形成への寄与等の教育課程上の役割があることが整理された。

## 具体的論点（案）

- 特別活動の目標において資質・能力を三つの柱に分けて規定した意義としては、
  - ✓ 観点別評価により、学習状況を分析的に捉えることができる
  - ✓ 目標標準拠評価を通じて、指導と評価の一体化を図ることができる等が挙げられる。
- 「目標」については、育むべき知識・技能と思考力・判断力・表現力等を分けて観念でき、引き続き、分けて示すことが考えられる。
- 「内容」については、以下の諸点を踏まえ、引き続き、知識・技能を思考力・判断力・表現力等と独立して示さないことが適当と考えられる。【補足イメージ1】【補足イメージ2】
  - ✓ 確かな民主主義の担い手の育成や共生社会の実現に向けた基盤を提供する領域として、よりよい社会を主体的に形成しようとする力を育むという特別活動の意義・役割、「なすことによって学ぶ」という特別活動の方法原理を踏まえれば、「他者との対話や協働」「学びの自己調整」を中心とした「学びに向かう力・人間性等」を実践的に育むことがとりわけ重視される特質を有していること
  - ✓ この「学びに向かう力・人間性等」は、合意形成や意思決定といった思考力・判断力・表現力等を発揮する過程で表出すること
  - ✓ 一方で、特別活動に関わる知識・技能は学問体系に基づきあらかじめ明確に整理できるものではなく、知識・技能を内容として示し、それらの習得に向けて指導するというよりも、子供の主体的・実践的な活動を通じて、他の資質・能力と一体的に育むことが求められること
- 特別活動の「内容」を表形式で規定するにあたっては、現行と同様、知識・技能と思考力・判断力・表現力等を分けて記述することはせず、学びに向かう力・人間性等が一体として表出することが期待される思考・判断・表現の学習過程を中心に、記載してはどうか。【補足イメージ3】

# 特別活動における資質・能力の構成について（イメージ）

- 特別活動における資質・能力については、現行学習指導要領の目標に掲げているとおり、育むべき知識・技能と思考力・判断力・表現力等を分けて観念できる。
- その上で、特別活動における資質・能力の構成について、学びに向かう力・人間性等をとりわけ重視される資質・能力として、以下のとおり整理してはどうか（図での表現の仕方については、今後、道徳や総合における資質・能力の議論も踏まえて検討）



## 知識・技能

- 分節して観念できるが、学問体系によってあらかじめ明確に整理できるものではなく、内容の習得に向けて指導するというよりも、子供の主体的・実践的な活動を通じて、他の資質・能力と一緒に育むことが求められる

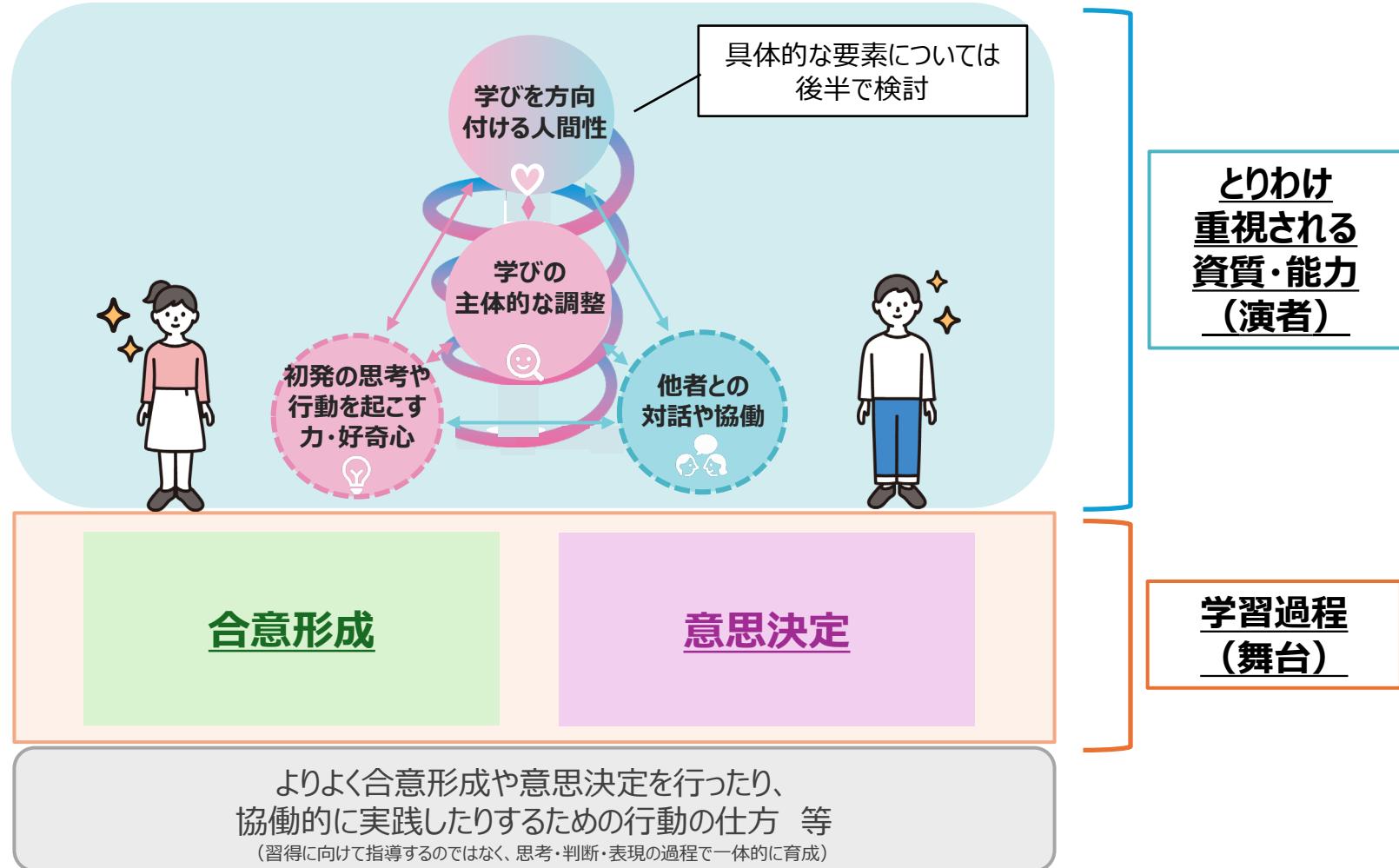
## 特別活動における「思考力、判断力、表現力等」と「学びに向かう力・人間性等」の関係（イメージ）

- 特別活動においては、「思考力、判断力、表現力等」それ自体よりも、各活動等を通じて、身近な社会や自己の生活を主体的に創造していく「学びに向かう力・人間性等」が重要であることを踏まえ、特別活動においては、「合意形成」や「意思決定」という「思考力、判断力、表現力等」の学習過程（舞台）において、「学びに向かう力・人間性等」というとりわけ重視される資質・能力（演者）が表し得るものとして、イメージを整理してはどうか。

**学びに向かう力  
・人間性等**

**思考力・判断力  
・表現力等**

**知識・技能**



# 特別活動の表形式化の形式

## (中学校・学級活動の現行の記載をベースとしたイメージ)

[学級活動]

1 目標 (略)

相当する指導学年を明示

2 内容

1の資質・能力を育成するため、全ての学年において、次の各活動を通して、それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるよう指導する。

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

学級や学校における生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。

イ 学級内の組織づくりや役割の自覚

学級生活の充実や向上のため、児童が主体的に組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い実践すること。

ウ 学校における多様な集団の生活の向上

児童会など学級の枠を超えた多様な集団における活動や学校行事を通して学校生活の向上を図るために、学級としての提案や取組を話し合って決める。

学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画	
全ての学年において	
	ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 学級や学校における生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。
	イ 学級内の組織づくりや役割の自覚 学級生活の充実や向上のため、生徒が主体的に組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い実践すること。
	ウ 学校における多様な集団の生活の向上 生徒会など学級の枠を超えた多様な集団における活動や学校行事を通して学校生活の向上を図るために、学級としての提案や取組を話し合って決める。

内容については、これまでと同様、知識・技能と思考力・判断力・表現力等を分けて記述することはせず、具体的な記載ぶりについては、活動固有の思考・判断・表現の学習過程を中心としたものとなるよう、必要に応じて記載ぶりを検討



## 検討項目④

# 資質・能力の柱ごとの目標

## 検討項目⑤ 資質・能力の柱ごとの目標

・知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力・人間性等について、目標にどのように記載すべきか

### 現状

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようとする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

### 改善イメージ

● ● する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、● ● することなどを通じて（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力・人間性等

# (0) 「目標の柱書」のイメージ

現状

小学校

中学校

高等学校

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働きかせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

考え方

(論点整理)

- 主体的・実践的に社会参画する力を育むことができるよう、特別活動を中心として見直しを図る
  - 身近な社会である学級・学校で、多様な個性や特性、背景を持つ他者との対話や協働により、児童生徒が主体となってルールの形成や学校生活の改善、学校行事など様々な活動に参画することにより、「生成AI時代の主権者」として、確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤を提供する領域として、特別活動の位置付けを明確化すべき
- +
- 柱書は資質・能力そのものではなく、資質・能力の趣旨や学習過程を端的に示すものであり、小中高で書き分ける必要性が薄い

改善イメージ

小学校

中学校

高等学校

確かな民主主義や共生社会の担い手として求められる、よりよい社会をの形成に向けて参画しようとする資質・能力について、自己の生活や身近な社会を主体的・実践的に創造する活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

# (1) 「知識及び技能」のイメージ

現状

小学校	中学校	高等学校
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。		

考え方

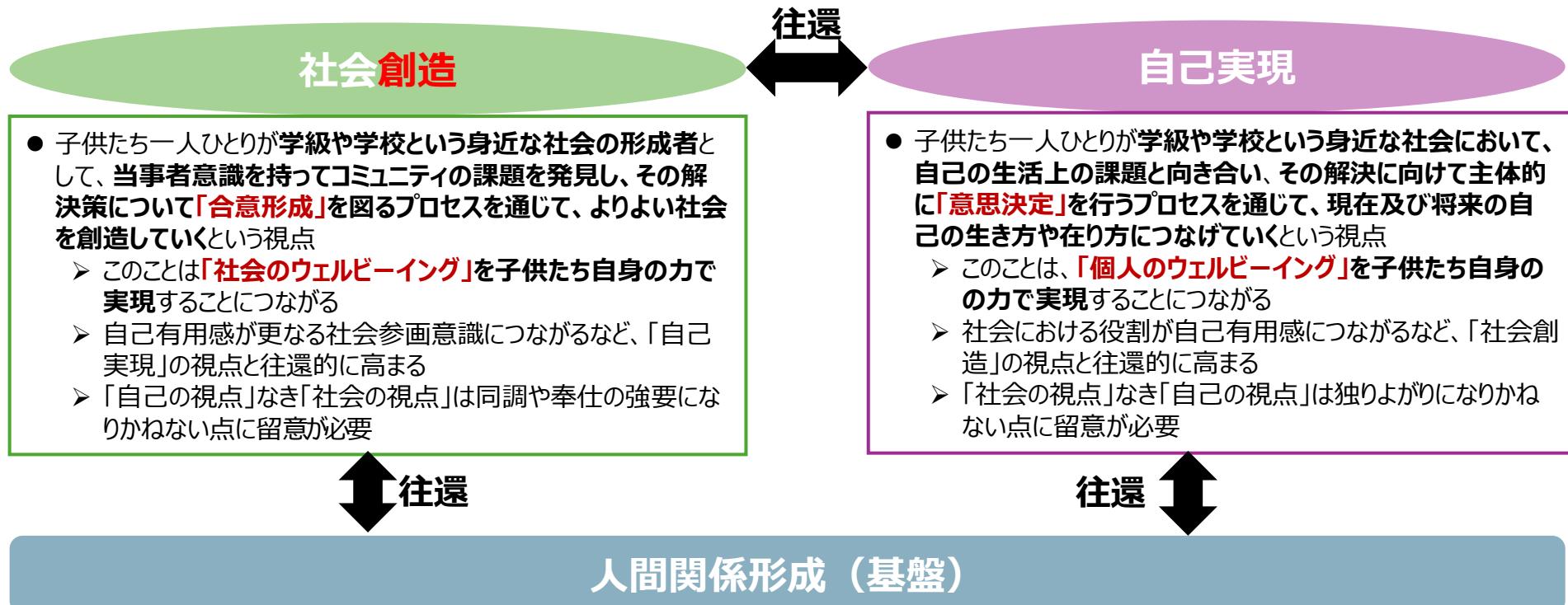
- (論点整理)
- 主体的・実践的に社会参画する力を育むことができるよう、特別活動を中心として見直しを図る
  - 身近な社会である学級・学校で、多様な個性や特性、背景を持つ他者との対話や協働により、児童生徒が主体となってルールの形成や学校生活の改善、学校行事など様々な活動に参画することにより、「生成AI時代の主権者」として、確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤を提供する
  - 知識の系統性を特徴とする各教科と異なり、特別活動にとって「思考力・判断力・表現力等」の過程で表出する「学びに向かう力・人間性等」がとりわけ重要であり、知識・技能の質的側面を分節的に検討することに馴染みにくいことを踏まえれば、発達の段階に応じて書き分けを行う意義が小さい

改善イメージ

小学校	中学校	高等学校
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自己の生活や身近な社会、人間関係をよりよくすることの意義について理解する。</li><li>・ 多様な他者とよりよく合意形成や意思決定を行ったり協働的に実践したりするための行動の仕方を身に付ける。</li></ul>		

# 「三つの視点」の再整理

- 前回改訂時から見方・考え方のベースとなっている三つの視点（「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」）について、概念上必ずしも並列とは言えないとの指摘があった。
- 以下のような考え方に基づき、「人間関係形成」、「社会創造」、「自己実現」の三つに改め、並列ではなくそれが往還的に高まっていく関係として、以下のとおり再整理してはどうか。



- 学校という身近な社会において、主体的によりよい人間関係を形成していくという視点
  - 安心して意見を表明したり、失敗したりできる「心理的安全性の確保」や、特定の個人・集団に過度に依存しない複層的な人間関係が、コミュニティの合意形成や個人の意思決定のみならず、各教科等における協働的な学びの基盤としての役割を果たす
  - 「社会創造」「自己実現」の視点を有する様々な活動を通じて、人間関係も往還的に高まる
  - ここでいう「人間関係形成」とは同調的な人間関係ではなく、子供たちの多様な個性や特性、背景の包摂を前提として、互いのよさや可能性を発揮し、多様性を個人及び社会の力に変えていく視点を含むものであることに留意が必要

## (2) 「思考力・判断力・表現力等」のイメージ

現状

小学校

中学校

高等学校

集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようになる。



考え方

(論点整理)

- 「当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる」
  - 子供たちにとって身近な社会である学級・学校をフィールドにして、意見表明の機会、合意形成の機会、参画の機会をより充実させる必要がある
  - 児童生徒が主体となってルールの形成や学校生活の改善、学校行事など様々な活動に参画することにより、「生成AI時代の主権者」として、確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤を提供する
- +
- 知識の系統性を特徴とする各教科と異なり、特別活動にとって「思考力・判断力・表現力等」の過程で表出する「学びに向かう力・人間性等」がとりわけ重要であり、思考力・判断力・表現力等の質的側面を分節的に検討することに馴染みにくいことを踏まえれば、発達の段階に応じて書き分けを行う意義が小さい

改善イメージ

小学校

中学校

高等学校

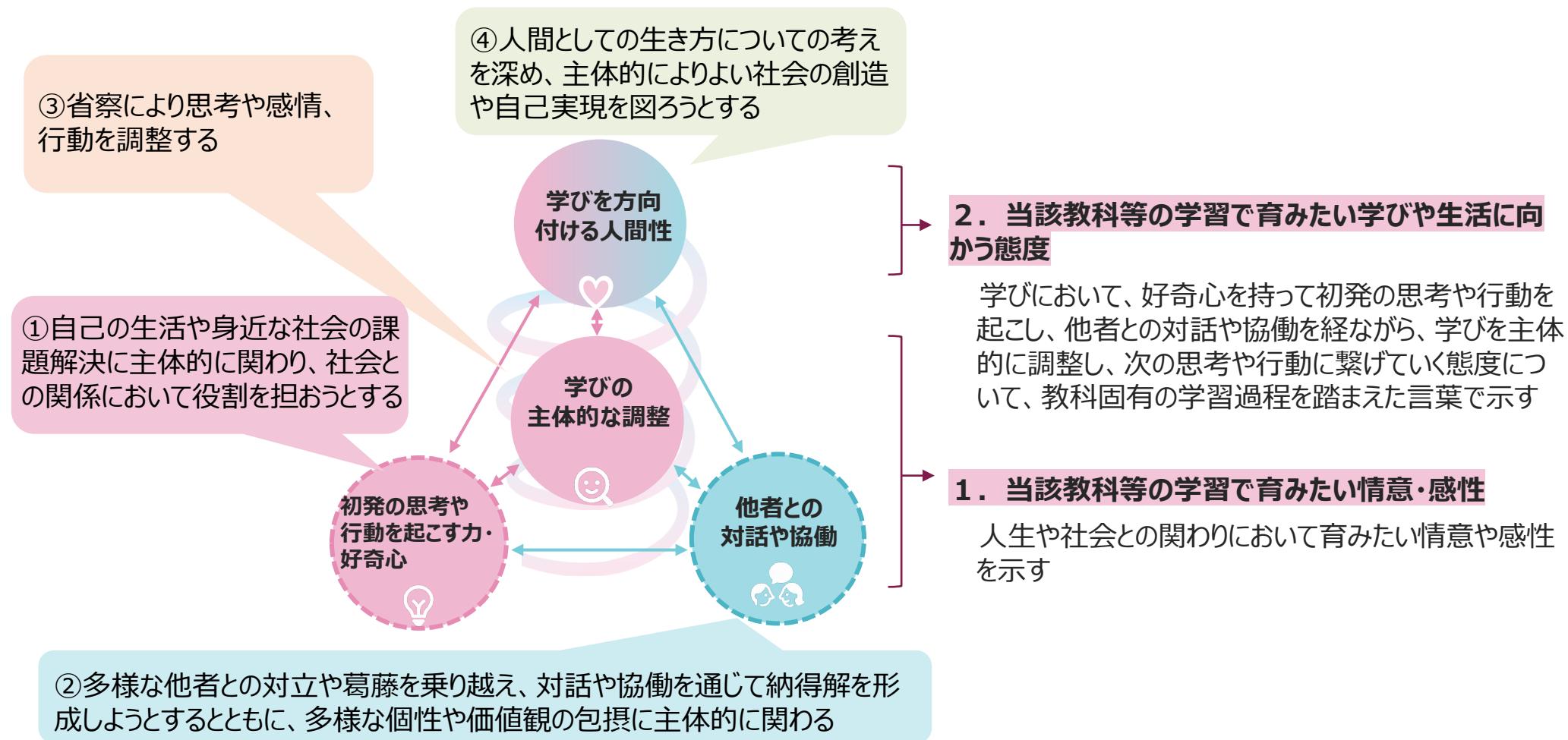
- ・ 自己の生活や身近な社会、人間関係についての課題を見いだし、根拠を持って自己の意見や立場を形成し、表現することができるようになる。
- ・ 多様な個性や特性、背景を有する他者の考えや価値観を尊重し、対立や葛藤を乗り越えながら合意形成や意思決定を行い、実践を通して価値の創造を行うことや、振り返りを通して新たな課題を見いだすことができるようになる。

# 発達の段階に応じた学びに向かう力・人間性等の質の要素（たたき台イメージ）

確かな民主主義の担い手の育成や共生社会の実現に向け、合意形成や意思決定の過程で表出する、学びに向かう力・人間性等についての考え方を整理することが重要。学びに向かう力・人間性等の新たな整理も踏まえ、特別活動の特質や発達の段階を踏まえた学びに向かう力・人間性等の要素について、以下のとおり整理してはどうか。

		小学校	中学校	高校
学びに向かう力・人間性等の要素	①当事者性	役割への主体性・責任感	よりよいコミュニティ（身近な社会である学級・学校）の形成に向け、役割を主体的に担い、責任を全うしようとする  好き（興味・関心）や得意から、社会との調整へ (狭い責任範囲から、より広い責任範囲へ)	
	②協働性	課題への主体性	自己の生活や自己の属するコミュニティ（身近な社会である学級・学校）の課題に目を向け、よりよくするために主体的に関わろうとする	
	③自律性	対立・葛藤の対処への主体性	よりよい社会の形成に向け、多様な他者との対立や葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとする  単純な葛藤から、より多面的・多角的な視点を含む複雑な葛藤へ	
	④在り方生き方	多様性の尊重、包摂への主体性	個性や特性、背景、価値観、少数意見を尊重し、多様性を価値に変えようとする 合意形成の過程や結果において不公正や見落とされた存在がいか見渡そうとする	
	⑤自己実現	省察による思考や感情、行動の自己調整	自己の行動や他者の意見・価値観等を省察し、よりよい合意形成や意思決定を目指し自己の思考や感情、行動を調整する	
	⑥社会創造	主体的な社会創造、自己実現	実生活上の実践を通じて自己の在り方生き方についての考えを深め、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする  自己の生き方についての考え方から、自己の在り方生き方についての自覚へ	

# 特別活動における「学びに向かう力・人間性等」の要素 (中学校 特別活動のイメージ)



# (3) 「学びに向かう力・人間性等」のイメージ

現状

小学校	中学校	高等学校
自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、 <u>自己の生き方についての考え方を深め</u> 、自己実現を図ろうとする態度を養う。	自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、 <u>人間としての生き方についての考え方を深め</u> 、自己実現を図ろうとする態度を養う。	自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、 <u>主体的に集団や社会に参画し</u> 、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、 <u>人間としての在り方生き方についての自覚を深め</u> 、自己実現を図ろうとする態度を養う。

(論点整理)

- 主体的・実践的に社会参画する力を育むことができるよう、特別活動を中核として見直しを図る
- 身近な社会である学級・学校で、多様な個性や特性、背景を持つ他者との対話や協働により、児童生徒が主体となってルールの形成や学校生活の改善、学校行事など様々な活動に参画することにより、「生成AI時代の主権者」として、確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤を提供する +
- 「学びに向かう力・人間性等」が特別活動にとってとりわけ重視される資質・能力であると整理する場合、資質・能力を育むにあたって、小、中、高で目指す資質・能力の高まりについて、発達の段階に応じて書き分ける意義がある。

小学校	中学校	高等学校
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の生活や身近な社会の課題解決に主体的に関わり、<u>興味・関心に応じて役割や責任を担おうとする</u></li> <li>・多様な他者との対立や葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる</li> <li>・省察により思考や感情、行動を調整する</li> <li>・<u>自己の生き方についての考え方を深め</u>、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の生活や身近な社会の課題解決に主体的に関わり、<u>社会との関係において役割や責任を担おうとする</u></li> <li>・多様な他者との対立や葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる</li> <li>・省察により思考や感情、行動を調整する</li> <li>・<u>人間としての生き方についての考え方を深め</u>、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の生活や身近な社会の課題解決に主体的に関わり、<u>社会における役割や責任を担おうとする</u></li> <li>・多様な他者との対立や複雑な葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる</li> <li>・省察により思考や感情、行動を調整する</li> <li>・<u>人間としての在り方生き方についての自覚を深め</u>、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする</li> </ul>

改善イメージ

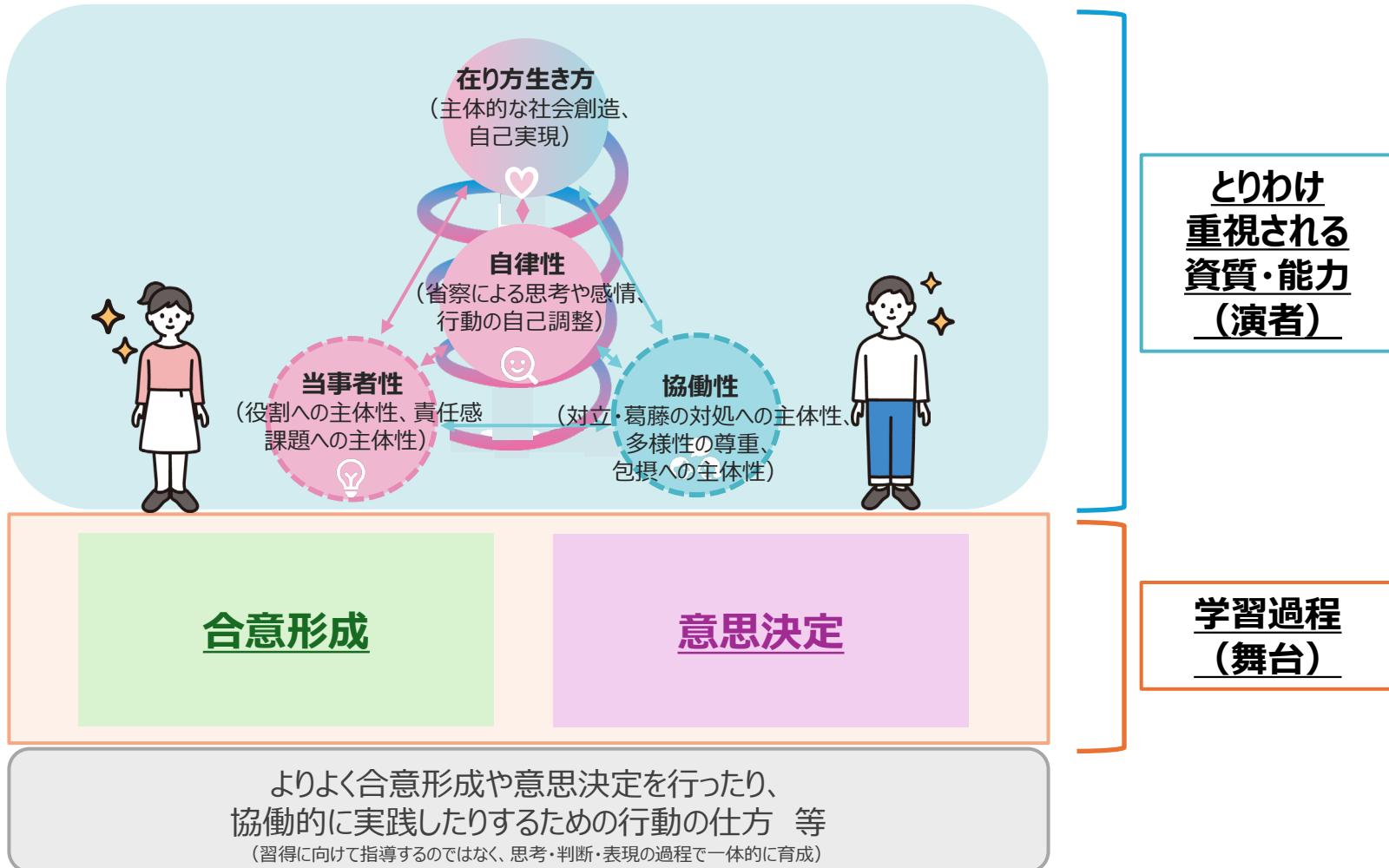
## 特別活動における「思考力、判断力、表現力等」と「学びに向かう力・人間性等」の関係（イメージ）

- 特別活動においては、「思考力、判断力、表現力等」それ自体よりも、各活動等を通じて、身近な社会や自己の生活を主体的に創造していく「学びに向かう力・人間性等」が重要であることを踏まえ、特別活動においては、「合意形成」や「意思決定」という「思考力、判断力、表現力等」の学習過程（舞台）において、「学びに向かう力・人間性等」というとりわけ重視される資質・能力（演者）が表し得るものとして、イメージを整理してはどうか。

**学びに向かう力  
・人間性等**

**思考力・判断力  
・表現力等**

**知識・技能**





## 検討項目⑤

# 高次の資質・能力

## 検討項目④ 高次の資質・能力

- ・特別活動における「高次の資質・能力」をどのように考えるか



### 議論の前提

#### 【総則・評価部会での議論】

- 総則・評価特別部会では、「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」(以下「高次の資質・能力」)について、
- 「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割を担うもの
- こうした役割を果たす「高次の資質・能力」を各WGで具体的に抽出する際、各教科等固有の学習過程の改善を図るためにには、教科ごとの特質に応じて検討が行われる必要があり、書きぶりを現時点で一律に整理すべきものではないとした上で、
- 「高次の資質・能力」がその目的を踏まえたものとなっていることを担保するチェックボイントを示した上で、各教科等WGでの検討を深めることとしている。

#### 【チェックポイントとして示された具体的な観点】

- A 教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点
- B 資質・能力の深まりを示す観点
- C 深い学びを実現する単元づくりを助ける観点
- D 分かりやすさ等の観点

### 具体的論点（案）

- 「高次の資質・能力」については、備えるべき要素や性質等の共通性の確保が重要である一方、特別活動においては、
  - ・他教科と異なり「知識・技能」「思考・判断・表現」ごとに内容を示していないこと
  - ・合意形成や意思決定という思考・判断・表現の過程で一体的に表出する学びに向かう力・人間性等がとりわけ重視されるとの特質を踏まえれば、特別活動独自の「高次の資質・能力」について検討する必要。
- その上で、特別活動における「高次の資質・能力」については、
  - ・各活動の具体的な学習過程において、どのような「学びに向かう力・人間性等」を育むかを明確化することで、指導の改善・充実につながることが期待できること
  - ・そのことが、「深い学び」を実現するイメージを持ち易くするという、高次の資質・能力の役割に資すると考えられることを踏まえ、「思考力・判断力・表現力等」の学習過程と、その過程で表出することが期待される学びに向かう力・人間性等について一体的に表現することとした上で、チェックポイントに示された観点を踏まえ、記載ぶりを検討してはどうか。
- その上で、高次の資質・能力の粒度については、学級活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事という、特別活動における各活動等ごとを基本としつつ、例えば学級活動における合意形成や意思決定に関わる活動など、学習過程が特に異なると考えられる場合には、個別に位置付けることとしてはどうか。
- また、現行学習指導要領上、活動ごとに設定されている目標については、高次の資質・能力が目標と内容との間に位置付くことから、重複が生じることを踏まえ、高次の資質・能力に統合する形で整理することとしてはどうか。【補足イメージ】

# 高次の資質・能力の示し方 (中学校・学級活動の現行の記載をベースとしたイメージ)

## [学級活動]

### 1 目標

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

### 2 内容

1の資質・能力を育成するため、全ての学年において、次の各活動を通して、それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるよう指導する。

#### (1) 学級や学校における生活づくりへの参画

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

#### (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

- ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成
- イ 男女相互の理解と協力
- ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応
- エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

#### (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

- ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
- イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
- ウ 主体的な進路の選択と将来設計



	学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画		
高次の資質・能力	学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために合意形成を図り、役割を分担して協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級におけるよりよい生活づくりに目を向け、主体的に役割を担おうとする</li> <li>○ 対立や葛藤に対処し、多様な個性や価値観を包摂しようとする</li> <li>○ 他者の意見・価値観を省察し、自己の思考や行動を調整する</li> </ul>		
全ての学年において	ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや役割の自覚 ウ 学校における多様な集団の生活の向上	(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全	(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
高次の資質・能力	学級での話合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己の興味・関心や課題に目を向け、主体的に行動しようとする</li> <li>○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする</li> <li>○ 他者の意見・価値観を省察し、自己の思考や行動を調整する</li> </ul>		
全ての学年において	ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成 イ 男女相互の理解と協力 ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応 エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 ウ 主体的な進路の選択と将来設計	
	ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成 イ 男女相互の理解と協力 ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応 エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成		

### **3．特別活動の評価の在り方について**



# 議論の前提

- 現行指導要領では、特別活動の評価については、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度のそれについて目標準拠評価を行い、総括的な評価としては、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できると判断される場合に「○」で評価することとしている。
- この運用にあたっては、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、学習指導要領に示す目標を踏まえ、各学校で評価の観点を定めることとしている。  
(H31.3改善等通知)
- また、「学習評価に関する参考資料（R2.3）」において、観点別・内容のまとまりごとに評価規準を作成し、学期や年間を通じて顕著な事項を見取り「○」を記録した評価補助簿を作成し、評価の総括に活かす取組等を例示しているが、国が示す評価の在り方と現場の実態との間に乖離があるとの指摘がある。

# 具体的論点（案）

## ○特別活動における評価の在り方

【補足イメージ1】【補足イメージ2】

- 今般の改善において、確かな民主主義の担い手の育成や共生社会の実現といった特別活動の意義や役割の再整理を行うことに伴い、「学びに向かう力・人間性等」がとりわけ重視されるようになることを踏まえれば、資質・能力の要素を分節して目標準拠評価を行うことに馴染みにくくなる。
- また、「学びに向かう力・人間性等」については、個人内評価とすることで、過度な評価材料集めを抑制しつつ、多様な子供たち一人ひとりのよさや成長を自然な形で見取り、肯定的に評価できるようになることが期待される。
- このことを踏まえ、資質・能力の三つの柱に分節した目標準拠評価は行わず、「思考・判断・表現」の過程で表出する「学びに向かう力・人間性等」について一体的に個人内評価を行い、多様な子供たち一人ひとりのよさや成長を自然な形で見取れるようにするとともに、総括的評価については、成長が特に顕著な場合に記号を付記する等して評価を行うこととしてはどうか。  
(なお、こうした方向性は教育課程全体の方向性とも親和的であり、更なる詳細については、教育課程全体に関わる総則・評価特別部会の議論等を踏まえて検討)
- その上で、
  - ✓ 教師の指導の改善や、児童生徒が次の学びに向かうことができるようとするといった学習評価の趣旨
  - ✓ とりわけ重視される学びに向かう力・人間性等が「学習の過程」で表出すること
  - ✓ 総括的評価として、目標準拠評価ではなく、児童生徒一人ひとりがいかに成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価として評価を実施する意義を踏まえれば、
  - ✓ 教師による評価としては、形成的評価（見取りを踏まえた適時の声掛けや指導・支援等）、
  - ✓ 児童生徒自身による評価として、自己評価（振り返り）や相互評価（自己の考え方や振り返りの共有・話合い）を重視することと整理してはどうか。

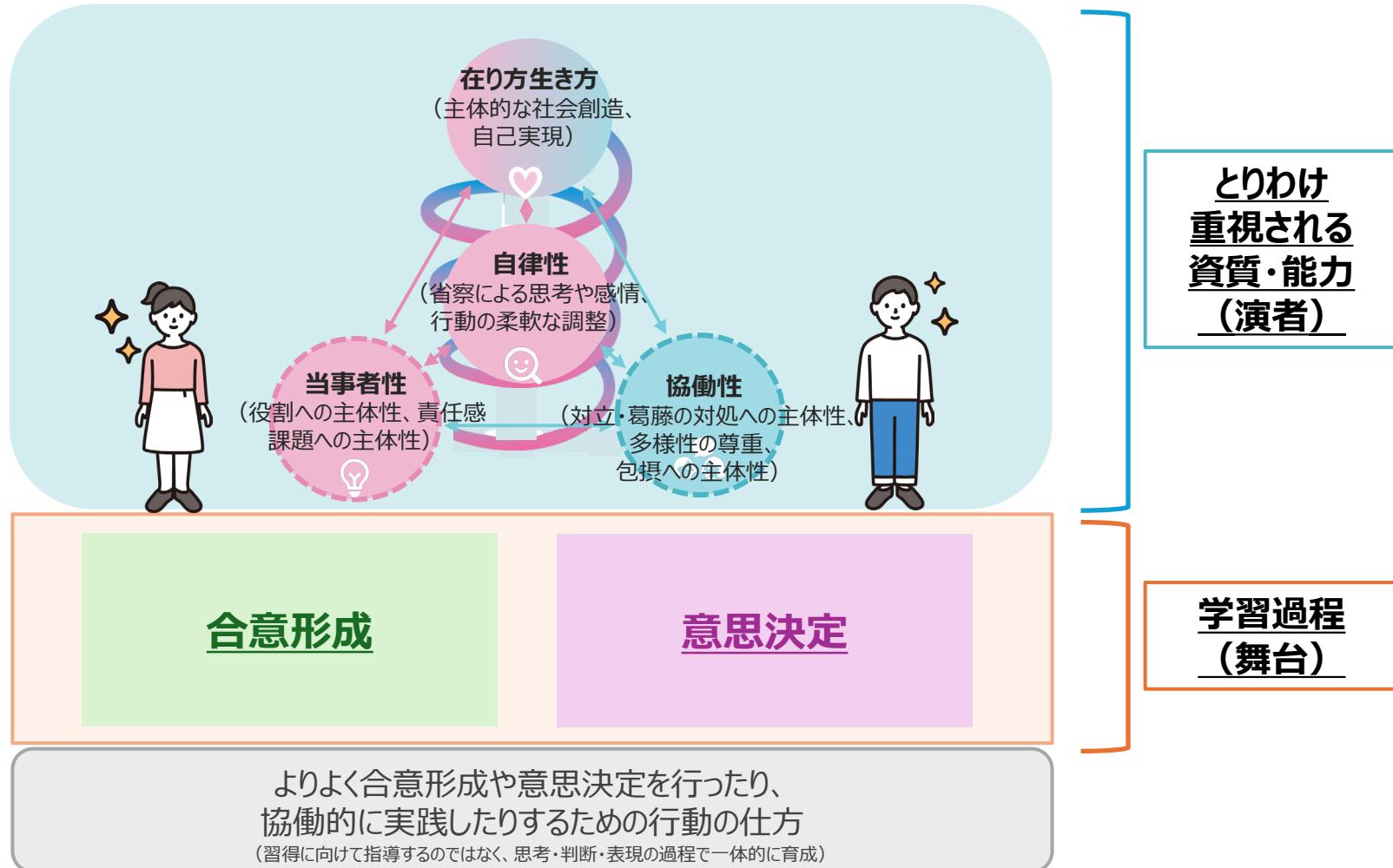
## 特別活動における「思考力、判断力、表現力等」と「学びに向かう力・人間性等」の関係（イメージ）

- 特別活動においては、「思考力、判断力、表現力等」それ自体よりも、各活動等を通じて、身近な社会や自己の生活を主体的に創造していく「学びに向かう力・人間性等」が重要であることを踏まえ、特別活動においては、「合意形成」や「意思決定」という「思考力、判断力、表現力等」の学習過程（舞台）において、「学びに向かう力・人間性等」というとりわけ重視される資質・能力（演者）が表し得るものとして、イメージを整理してはどうか。

**学びに向かう力  
・人間性等**

**思考力・判断力  
・表現力等**

**知識・技能**

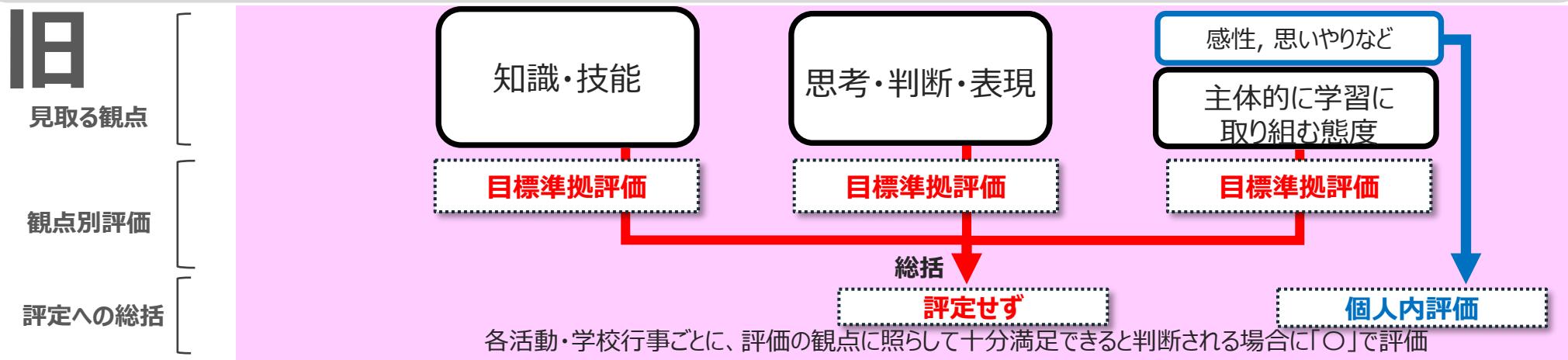


# 新たな特別活動の評価について（イメージ）

補足イメージ1

- 今般の改善において、確かな民主主義の担い手の育成や共生社会の実現といった特別活動の意義や役割の再整理を行うことに伴い、「学びに向かう力・人間性等」がとりわけ重視されるようになることを踏まえれば、資質・能力の要素を分節して目標標準拠評価を行うことに馴染みにくくなる。
- また、「学びに向かう力・人間性等」については、個人内評価とすることで、過度な評価材料集めを抑制しつつ、多様な子供たち一人ひとりのよさや成長を自然な形で見取り、肯定的に評価できるようになることが期待される。
- これらを踏まえ、資質・能力の三つの柱に分節した目標標準拠評価は行わず、「思考・判断・表現」の過程で表出す「学びに向かう力・人間性等」について一体的に個人内評価を行い、多様な子供たち一人ひとりのよさや成長を自然な形で見取れるようにするとともに、総括的評価については、成長が特に顕著な場合に記号を付記する等して評価を行うこととしてはどうか。

（なお、こうした方向性は教育課程全体の方向性とも親和的であり、更なる詳細については、教育課程全体に関わる総則・評価特別部会の議論等を踏まえて検討）



「学びに向かう力・人間性」に係る成長が特に顕著な場合に、各活動・学校行事ごとに、記号を付記するなどして評価

特別活動における評価について、

- ✓ 教師の指導の改善や、児童生徒が次の学びに向かうことができるようとするといった学習評価の趣旨
- ✓ とりわけ重視される学びに向かう力・人間性等が「学習の過程」で表出すること
- ✓ 総括的評価として、目標標準拠評価ではなく、児童生徒一人ひとりがいかに成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価として評価を実施する意義

を踏まえ、

- ✓ 教師による評価としては、形成的評価（見取りを踏まえた適時の声掛けや指導・支援等）、
- ✓ 児童生徒自身による評価として、自己評価（振り返り）や相互評価（自己の考えや振り返りの共有・話合い）

を重視することと整理してはどうか。

児童生徒自身  
による評価

教師による評価

## 学習の過程で行う評価

## 学習の締めくくりに行う評価

自己評価（振り返り）

相互評価（自己の考え方や振り返りの共有・話合い）

特別活動において重視する評価

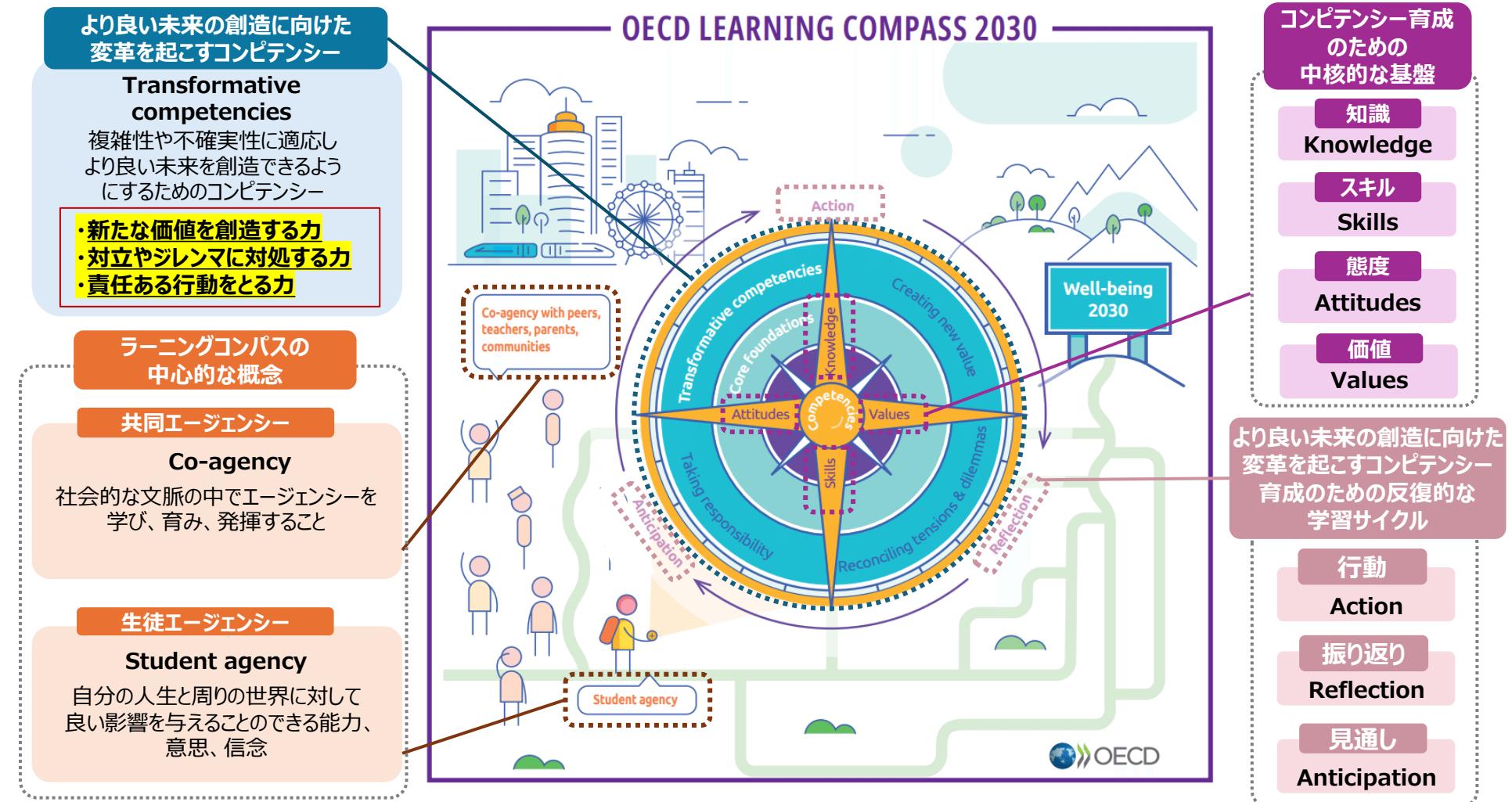
形成的評価  
(適時の声掛けや  
指導・支援等)

総括的評価  
(思考・判断・表現の過程で一体的に表出する  
学びに向かう力・人間性等について、個人内評価として記号を付記する等して評価)

# 參考資料

# OECDにおける「態度や諸価値・非認知的能力」の位置づけ

- OECDのラーニング・コンパス※では、自分の人生と周りの世界に対して良い影響を与えることのできる能力等である「生徒エージェンシー」と、それを社会的な文脈の中で学び、育み、発揮する「共同エージェンシー」を中心的な概念として示す
- これらのエージェンシーを発揮し、自らの可能性を発揮できる方向に進むためには、「カリキュラム全体を通して学習するために必要な基礎的な知識、スキル、**態度及び価値**」といったコンピテンシー育成のための中核的な基盤や、「より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシー」を備える必要があるとされている



※ : OECD Future of Education and Skills 2030プロジェクトにおいて作成された、教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組みを指す

## 我が国の教育をめぐる現状・課題・展望

- 教育の普遍的な使命：学制150年、教育基本法の理念・目的・目標（不易）の実現のため、社会や時代の変化への対応（流行）
- ▶ 教育振興基本計画は予測困難な時代における教育の方向性を示す羅針盤となるものであり、教育は社会を牽引する駆動力の中核を担う営み
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大
  - ・ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化
  - ・VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）
  - ・少子化・人口減少や高齢化
  - ・グローバル化・地球規模課題
  - ・DXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素）
  - ・共生社会・社会的包摂
  - ・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）
  - ・18歳成年・こども基本法 等

## 第3期計画期間中の成果

- ・（初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善
- ・（高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、連携・統合のための体制整備
- ・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や耐震化 等

## 第3期計画期間中の課題

- ・コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞
- ・不登校・いじめ重大事態等の増加
- ・学校の長時間勤務や教師不足
- ・地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化
- ・高度専門人材の不足や労働生産性の低迷
- ・博士課程進学率の低さ 等

## 計画のコンセプト

## 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- ・将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく
- ・社会課題の解決を、経済成長と結び付けてイノベーションにつなげる取組や、一人一人の生産性向上等による、活力ある社会の実現に向けて「人への投資」が必要
- ・Society5.0で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

## 今後の教育政策に関する基本的な方針

## ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成

- ・主体的に社会の形成に参画、持続的社会の発展に寄与
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、大学教育の質保証
- ・探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育等を推進
- ・グローバル化の中で留学等国際交流や大学等国際化、外國語教育の充実、SDGsの実現に貢献するESD等を推進
- ・リカレント教育を通じた高度人材育成

## ②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進

- ・子供が抱える困難が多様化・複雑化する中で、個別最適・協働的学びの一体的充実やインクルーシブ教育システムの推進による多様な教育ニーズへの対応
- ・支援を必要とする子供の長所・強みに着目する視点の重視、地域社会の国際化への対応、多様性、公平・公正・包摂性（DE&I）ある共生社会の実現に向けた教育を推進
- ・ICT等の活用による学び・交流機会、アクセシビリティの向上

人生100年時代に複線化する生涯にわたって学び続ける学習者

## ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進

- ・持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて、公民館等の社会教育施設の機能強化や社会教育人材の養成と活躍機会の拡充
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、家庭教育支援の充実による学校・家庭・地域の連携強化
- ・生涯学習を通じた自己実現、地域や社会への貢献等により、当事者として地域社会の担い手となる

## ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

DXに至る3段階（電子化→最適化→新たな価値（DX））において、第3段階を見据えた、第1段階から第2段階への移行の着実な推進

GIGAスクール構想、情報活用能力の育成、校務DXを通じた働き方改革、教師のICT活用指導力の向上等、DX人材の育成等を推進

教育データの標準化、基盤的ツールの開発・活用、教育データの分析・利活用の推進

デジタルの活用と併せてリアル（対面）活動も不可欠、学習場面等に応じた最適な組合せ

学校における働き方改革、待遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進、ICT環境の整備、経済状況等によらない学び確保

## ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

NPO・企業等多様な担い手との連携・協働、安全・安心で質の高い教育研究環境等の整備、児童生徒等の安全確保

各関係団体・関係者（子供を含む）との対話を通じた計画の策定等

## 3. 1. 及び2. を踏まえた今後の対応

- 以上のように、示す要素は同一でもその示し方は以下の2つのパターンが考えられる。各教科等では、2つのパターンから各教科等の特質に応じた学習過程の改善を図る上で、教師にイメージがより掴みやすいと考えられる方を選択し、形式の具体について各教科等WGで検討を深めることとしてはどうか
  - ✓ 「知・技」の内容のまとまりに対応した「思・判・表」を並列で示す、「並列」パターン
  - ✓ 「思・判・表」の深まりを「知・技」が支えることを示す、「並行」パターン
- なお、現行でも「知・技」「思・判・表」それぞれごとに内容を示していない、「生活」「特別活動」「道徳」「総合的な学習（探究）の時間」や幼稚園教育要領における内容の示し方については、上記のパターンの考え方を踏まえつつ、それぞれの教科・領域に適した表形式による示し方について、各WGで検討してはどうか
- なお、今回の表形式化は、欄に分けて記載された事項を一体的に、順序立てて見ることで、資質・能力に関する理解が深まり、教師の質の高い授業作りに繋がっていくということを期待して行うものである。したがって、単に見やすさのみを求めたり、表にすることが自己目的化したりすることなく、各教科等の特質に応じた学習過程の改善に繋がるように各WGで検討を深めることが重要。その際、表で端的かつ直感的な理解を保障しつつ、学習過程のデザインが具体的にイメージできるような説明が本文や解説で加えられることにより、より一層立体的な理解が可能になるのではないか。

## 4. 「タテ」の関係、「ヨコ」の関係の用語

- こうした考え方を表形式で示す場合、「並列」パターンでは、資質・能力の深まりを上下で、資質・能力の一体的育成の関係を左右で確認できるため、「タテ」「ヨコ」の関係の可視化という言葉がイメージしやすい。一方で、「並行」パターンでは、資質・能力の深まりは左右で、一体的育成の関係は上下で確認することとなるため、「タテ」「ヨコ」という語感とのズレが生じ、分かりにくいとの指摘もある
- このため、「タテ」「ヨコ」の関係の可視化という表現は今後用いず、「資質・能力の深まり」「資質・能力の一体的育成」の可視化といった表現を用いて示していくことが考えられるのではないか

# 表形式による構造化パターン①（並列パターン）

令和7年10月14日  
第2回総則・評価特別部会  
資料1-1 p.9

資質・能力の一体的育成の可視化

## （1）項目名

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
○学年 相当	<p>(小見出し) ⋮ (小見出し) ⋮</p> <p>右に示す思考・判断・表現の過程で、上に示す統合的な理解を獲得するため必要な要素となる知識及び技能を示す (検討項目⑤で詳細を検討)</p>	<p>(小見出し) ⋮ (小見出し) ⋮</p> <p>左に示す知識及び技能を活用しながら、上に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す (検討項目⑤で詳細を検討)</p>
○学年 相当	<p>(小見出し) ⋮ (小見出し) ⋮</p>	<p>知識及び技能に対応する思考力、判断力、表現力等が共通する場合など、分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。</p>
○学年 相当	<p>(小見出し) ⋮ (小見出し) ⋮</p>	
(内容の取扱い)		

想定する指導学年を明示する場合は、「○学年相当」という形で示す。  
(示さない場合や、複数学年毎に示す場合、単学年毎に示す場合など柔軟に対応)

資質・能力の深まりの可視化

# 表形式による構造化パターン② (並行パターン)

令和7年10月14日  
第2回総則・評価特別部会  
資料1-1 p.11

**資質・能力の深まりの可視化**

	<input type="radio"/> 学年相当	<input type="radio"/> 学年相当	<input type="radio"/> 学年相当
<b>思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮</b>  知識・技能を活用しつつ、思考力・判断力・表現力等を総合的に発揮して複雑な課題を解決できる力を示す（検討項目④で詳細を検討）	(1) 項目名 （小見出し） ・ ・  (2) 項目名 （小見出し） ・ ・  (3) 項目名 （小見出し） ・ ・	想定する指導学年を明示する場合は、「○学年相当」という形で示す。（示さない場合や、複数学年毎に示す場合、単学年毎に示す場合など柔軟に対応）	
<b>知識及び技能に関する統合的な理解</b>  この内容のまとめを通じて獲得して欲しい統合的な理解等を示す（検討項目④で詳細を検討）	(1) 項目名 （小見出し） ・ ・  (2) 項目名 （小見出し） ・ ・  (3) 項目名 （小見出し） ・ ・  (4) 項目名 （小見出し） ・ ・	下に示す知識及び技能を活用しながら、左に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す。 (検討項目⑤で詳細を検討)	
<b>(内容の取扱い)</b>	左に示す統合的な理解を獲得し、上に示す思考・判断・表現を豊かにするために必要となる知識及び技能を示す（検討項目⑤で詳細を検討）		
	学年相當に分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。		

※表の読み方を示す柱書きや、見出しや各項目の番号の示し方等の平仄については告示の検討に際して技術的に検討

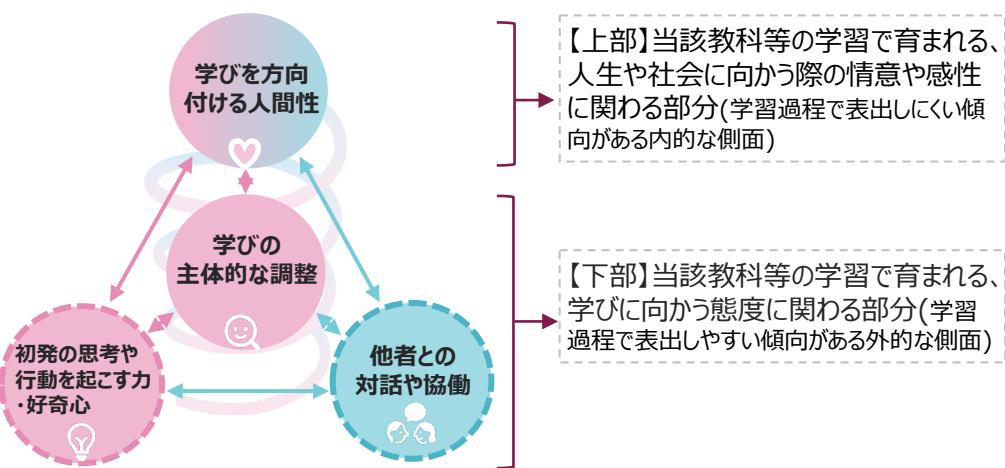
	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。</li> <li>○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての在り方生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。</li> <li>○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。</li> <li>○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活をよりよく形成しようとしたり、自己の生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。</li> </ul>

# 検討項目② 学びに向かう力・人間性等

令和7年10月14日  
第2回総則・評価特別部会  
資料1-1 p.5

## 1. 論点整理で示された方向性及び企画特別部会での議論

- 論点整理では、「学びに向かう力、人間性等」について、主要な要素や要素間の関係を構造化して分かりやすく示す観点から、下記の4つの要素により整理する方向性が示された
- 企画特別部会における議論の過程では、「学びに向かう力・人間性等」が単によりよい知の獲得に向けた力としてのみ捉えられてはならず、学習したことを踏まえて人生や社会に向かう際の情意・感性に係る側面も重視すべきとの強い意見があった



- また、論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」の学習評価に関し、個人内評価を基本とした上で、学びに向かう態度に関わる下部の3要素については、学習評価において、「思考・判断・表現」の過程で特に表出した場合には「○」をつける方向で検討するとされている

- 「学びに向かう力・人間性等」は、学習指導要領の「内容」に原則として記載がなく、学習評価に当たっては教科等の「目標」を踏まえて行うこととなるため、そうした点も踏まえた「目標」の書きぶりが重要

※ 現行、各教科等において育成する「学びに向かう力・人間性等」は、個別の学習内容に応じて異なることが想定されにくいため、原則として各教科等の「目標」水準でのみ記載されている。こうした性質は、今回の論点整理に伴って変わるものではない。

## 2. 1. を踏まえた目標における書きぶり

- 1. を踏まえると、「学びに向かう力・人間性等」の目標については、全ての要素を個別に盛り込むことで冗長となることを避けつつ、以下の2つの要素をバランス良く含めることとしてはどうか

### ① 当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度について、教科固有の学習過程を踏まえた言葉で示す  
(現行の例：自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度（中・理科）)  
→学びに向かう態度に係る3つの要素を踏まえた見直し

### ② 当該教科等の学習で育みたい情意・感性

人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性を示す

(現行の例：自然を愛する心情（小・理科）、明るく豊かな生活を営む態度（中・体育）など)

- 一方、現行でも、複数分野を有する社会科など、多くの内容が盛り込まれ目標の書きぶりが複雑な教科もある中、分かりやすく使いやすい学習指導要領を目指す上では、今回の見直しで一層複雑となることは避ける必要

- こうしたことを踏まえ、目標については、表形式となることも踏まえ、箇条書きも利用して分かりやすく構造化することを可能としてはどうか（この点は知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の目標も同様）

## 1. 「高次の資質・能力」の可視化の目的

- 検討項目③では表形式での内容の構造化で、
  - ✓ 「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化  
(従前の「タテ」の関係の可視化)
  - ✓ 「知・技」「思・判・表」の一体的育成の可視化  
(従前の「ヨコ」の関係の可視化)

を図ることにより、資質・能力の関係性の理解に基づき、それらを一体的に育成する単元づくりを助け深い学びを具現化しやすくなる方策を検討した

- このうち特に、「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」(※以下、総称して「高次の資質・能力」)を示すことについては、「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割を担うもの

※論点整理では、「知・技」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思・判・表」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめ「中核的な概念等」と呼んでいたが、新たな用語が増えることを避けるため現行でも用いられている言葉を用いることとしたもの。「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」をまとめて呼称する際、以後「高次の資質・能力」と呼ぶこととする。これらの用語の在り方については、各教科等WGでの具体的な議論も踏まえた上で、学校現場に趣旨が適切に伝わるものとなっているかという視点から継続的に検討。

## 2. 各WGでの検討に当たっての考え方

- こうした役割を果たす「高次の資質・能力」を各WGで具体的に抽出する際、各教科等固有の学習過程の改善を図るためには、教科ごとの特質に応じて検討が行われる必要があり、書きぶりを現時点で一律に整理すべきものではない
- 一方で、各教科等での「高次の資質・能力」は、備えるべき要素や性質等について、一定の共通性があることにより、各教科等を横断して適切に機能を発揮することが期待できる
- 各教科等の独自性を活かしつつ、共通に備えるべき要素や性質等が確保された「高次の資質・能力」の書きぶりとなるよう、次頁のように「高次の資質・能力」がその目的を踏まえたものとなっていることを担保するチェックポイントを示した上で、各教科等WGでの検討を深めてはどうか (次頁参照)
- なお、「全てのポイントに照らして異論の余地のない」ものを検討することは困難な場合も考えられるため、各教科等の授業改善に資する点を重視しつつ検討を進めるべきではないか

## 「高次の資質・能力」を検討する上でのチェックポイント（案）

### 【A 教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点】

- ・目標の達成に資する上で重要であるとともに、各教科等の本質的意義の中核（「見方・考え方」）に照らし適切なものであるといえるか

### 【B 資質・能力の深まりを示す観点】

- ・要素となる個別の資質・能力の「深まり」を示す事ができているか。具体的には、内容のまとまりを単に要約した「見出し」に留まるのではなく、個別の資質・能力が児童生徒の中で相互に関連付けられて、統合的に獲得された際の姿を示すことができているか
- ・要素となる個別の資質・能力を学ぶことの意義（※）や、それを広く社会において、いつ、どのような文脈で活用することができるのか、教師がイメージしやすいものとなっているか

（※）学ぶことの「意義」は必ずしも実生活における実用的な側面にとどまらない点に留意

### 【C 深い学びを実現する単元づくりを助ける観点】

- ・教師が単元構想時に、「知識及び技能の統合的な理解」と、それにぶら下がる個別の「知・技」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、単元を通じて児童生徒が追究する本質的な「問い合わせ」を構想する上で参考になるか
- ・教師が単元構想時に、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、論述・レポート・発表・作品製作等、単元を通じて児童生徒が資質・能力を総合的に発揮しながら取り組む課題を構想する上で参考になるか

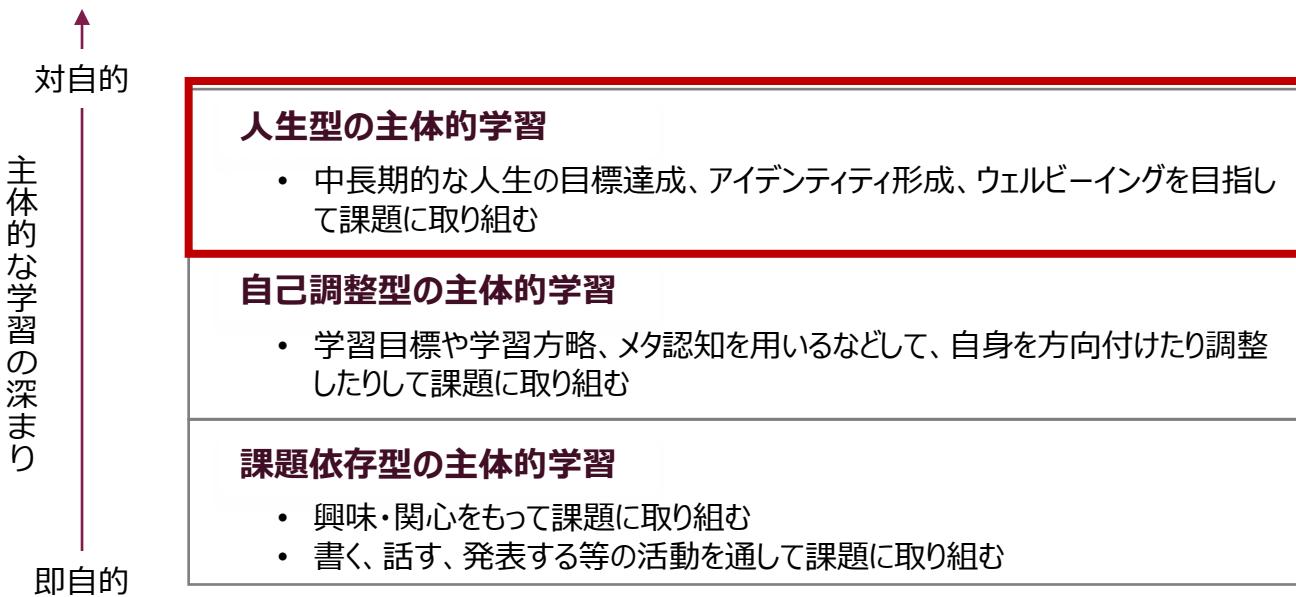
### 【D 分かりやすさ等の観点】

- ・経験の浅い教師も含めて、一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わる文言となっているか（学習・指導を通じて、最終的には児童生徒自身が掴むことができる必要があるという点も留意）
- ・学校種・学年等、発達段階に即して妥当なものとなっているか（系統性等の重視により、発達段階に照らし過度に抽象的となっていないか等）

- 溝上慎一氏は、「主体的な学習（*agentic learning*）」を「行為者（主体）が課題（客体）にすすんで動きかけて取りくまれる学習のこと」と定義した上で、その性質を「課題依存型の主体的学習」、「自己調整型の主体的学習」、「人生型の主体的学習」の3つに分類する（「主体的な学習スペクトラム」）
- 学習課題に促され主体的が発動される学習から、自身の学習目標や学習方略を使用する主体的学習、中長期的な目標達成やアイデンティティ形成・ウェルビーイングを目指した学習へと深まっていくことが示されている

## 溝上慎一「アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性」

### 「主体的な学習スペクトラム」



## 主体性の目標分類（タキソノミー）について

表.「主体性」のタキソノミー（学びへの関与と所有権の拡大のグラデーション）  
(出典：石井英真『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論』図書文化、2023年)

		出口の情意
特別活動	自治（変革人：エージェンシー）	社会関係を創りかえる 対象世界を創りかえる
	人間的成熟（なりたい自分：アイデンティティ）	軸（思想）の形成 視座の高まり
総合学習	自律（探究人：こだわり）	自分事の問いの深化 問い合わせの生成
	学び超え（生涯学習者・独立的学習者）	思考の習慣（知的性向） 関心の広がり
教科学習	学習態度（自己調整学習者・知的な初心者）	方略的工夫 試行錯誤
	関心・意欲	積極性（内発的動機づけ）
表面的参加	受身（外発的動機づけ）	

# 現行学習指導要領における特別活動の評価について

- 評価基準の作成や、効果的な学習評価の参考となるよう、文部科学省 国立教育政策研究所から「評価の観点」、「内容のまとめごとの評価基準」の作成手順や、評価補助簿の例を示してきたところ。

## 1. 「『評価の観点』、『内容のまとめごとの評価基準』の作成手順」について

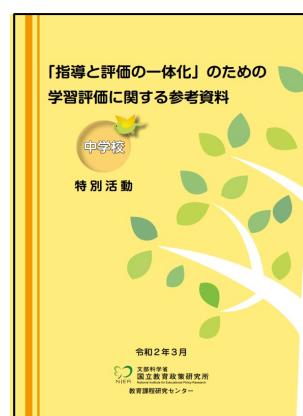
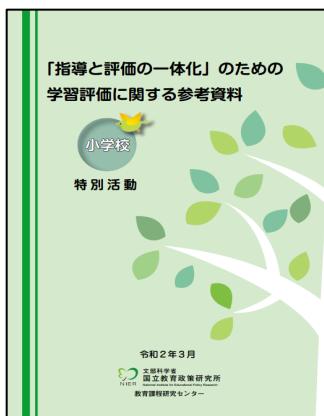
※「出典」小学校27頁、中学校27頁

- ① 学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を確認する。
- ② 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定する。
- ③ 学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説特別活動編(平成29年7月)(以下学習指導要領解説)で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。
- ④ 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめごとの評価基準」を作成する。

※「改善等通知」は「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」平成31年3月29日 初等中等教育局長通知を指す。

「出典」

- ：「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」小学校 特別活動  
：「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」中学校 特別活動



## 2. 「評価補助簿」の例（小学校、学級活動）

※内容のまとめごとの評価基準等を踏まえ、機会を捉えて、顕著な事項を見取って記録した結果を一覧化する例として提示

※「出典」小学校50頁

### 知識・技能の評価

学級会ノートの記述から提案理由を理解しているかや、計画委員会の活動から話合いの進め方を理解し身に付けているか等を見取る。

### 思考・判断・表現の評価

話合いの様子から、出された意見のよさを生かしたり、改善策を考えたり、組み合わせたりして考えているか等を見取る。

### 主体的態度の評価

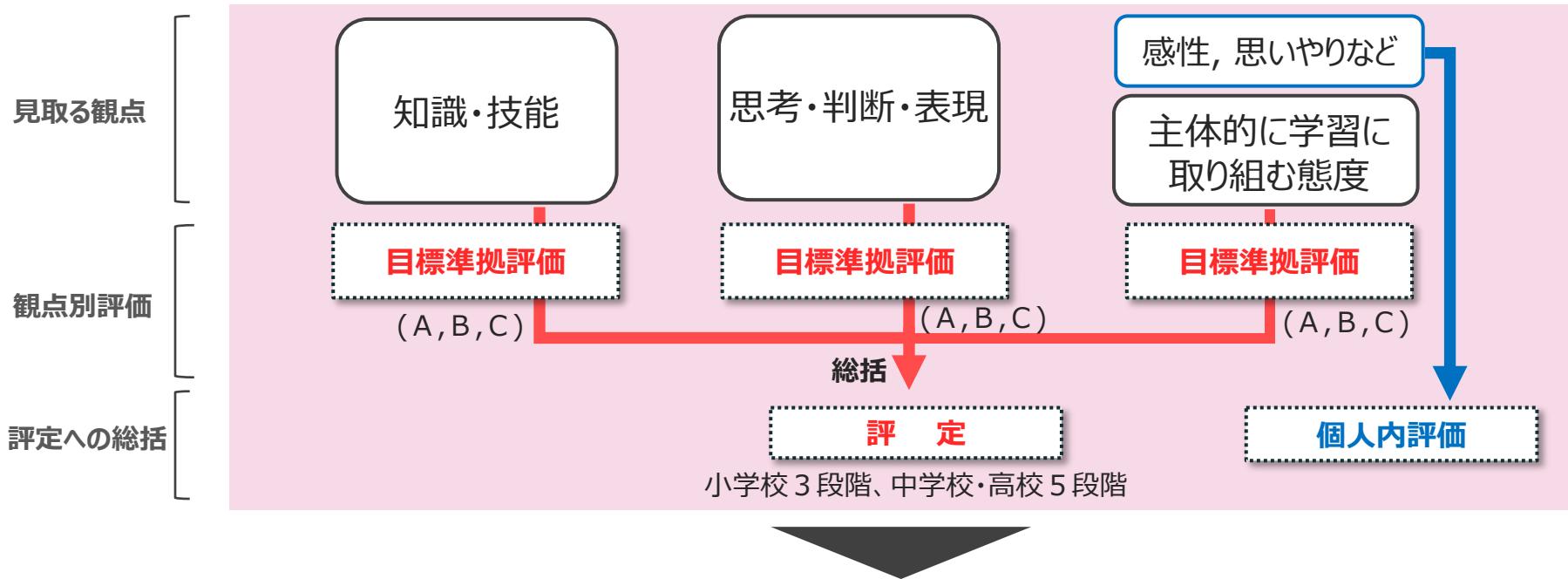
実践の様子から、自分のよさを生かし役割に取り組んだり、友達と協働して取り組んだりし活動しているか等を見取る。

名前	知・技	思・判・表	主体的態度	メモ		総括
				どのような姿を見取るのかを補助簿に具体的に示しておくことも考えられる。	○やメモの記述がない児童について、児童のよさを積極的に見取るために、機会を捉え重点的に評価したり、課題を把握し個別の指導を図ったりし、評価を指導に生かすことが重要である。	
1 A	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	7/16 集会の準備を休み時間に一生懸命行い、全員分のメダルを作っていた。	<input type="radio"/>	
2 B	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	9/17 学級会では、みんなが納得するアイデアを改善策として発表していた。	<input type="radio"/>	
3 C						
4 D			<input type="radio"/>			
5 E	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	6/15 準備をしたりクイズを考えたりと主体的に活動し、みんなを楽しませた。 9/17 司会を務め、出された意見を生かして合意形成を図ろうとしていた。	<input type="radio"/>	

一連の学習過程を通して、児童の様子の観察やノートの記述等を参考にしながら、機会を捉えて評価する。十分満足できる活動の状況の場合、その都度、○の付けたり、メモ欄にその様子の記述に日付を加えてメモを書いたりする。

# 新たな観点別評価の方向性イメージ

旧



新

